

グラデュエーション・ポリシー				
<p>自ら問いを立て、その解決に取り組む、課題発見・課題解決力と、創造性をもった生徒—現状に甘んじることなく、自分や社会がより良くなるための前向きな変化を模索する『チェンジ・メイカー』—</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を充実・向上させ、前向きな批判精神を育成する。 2 大学入学後に、知の体系を専門的に学び、自分の能力をさらに発展させることができる基礎的な学力と教養、素養を身に付けさせる。 3 他者と協働しながら粘り強く課題解決に取り組む姿勢を育成する。 4 他者との協働において、相手の立場を尊重し、人として何が大切なことかを主体的に選択できる判断力を身に付けさせる。 				
カリキュラム・ポリシー				
<p>学習活動と特別活動（部活動・学校行事）のいずれにおいても、はじめをつけてすべてをやり抜く事を目指す。「グラデュエーション・ポリシー」を踏まえ、具体的に育てたい資質・能力を「知識・技能 (Knowledge)」、「思考・判断・表現 (Ability)」、「主体的に学習に取り組む態度 (Motivation)」で分けて言語化し、それぞれを基本要素の「3つのC (C1 C2 C3)」にそれぞれ分類した。</p> <p>Critical Thinking (C1) 既存の情報をうのみにせず、真偽を疑い、多面的に捉え、「なぜ?」「何のため?」という物事の本質を問い続けながら、粘り強く考えること。</p> <p>Creative Thinking (C2) 自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって新たな発想をすること。</p> <p>Collaboration (C3) 個人それぞれが、自己の強み弱みを客観的に分析した上で、弱みについては互いに補完し、強みについては互いに掛け合わせてさらに発展させるために協働すること。</p>				
		C1	C2	C3
「知識・技能」 (Knowledge)	▷教科で身に付けさせる力	○	○	○

		C1	C2	C3
「知識・技能」 (Knowledge)	▷教科で身に付けさせる力	○	○	○
「思考・判断・表現」 (Ability)	▷自分の頭で考える力	○	○	
	▷自分の言葉で伝える力			○
	▷他者と伝え合うことのできる力			○
	▷自分を客観視できる力	○		
	▷新たな価値観を作り出すことのできる力	○	○	○
	▷蓄積した知識を用いて考える力		○	
	▷状況に応じて何が重要なのかを主体的に判断する力	○		
「主体的に学習に取り組む態度」 (Motivation)	▷信念をもって積極的に行動することのできる態度		○	○
	▷知の習得・活用・探究に努める態度		○	
	▷他者と関わろうとする態度			○
	▷礼を正す態度			○
	▷社会の変化に主体的に向き合う態度	○		
	▷新たな世界を逞しく切り拓こうとする態度		○	
	▷他者と協働しながら自らを高めていく態度			○
	▷粘り強く考える態度	○	○	○
	▷高い志によって課題の解決に取り組む態度	○	○	
	▷他者のために行動する態度			○

主として教科での活動を中心に据えた学習活動では、「知識・技能」の項目を各教科・科目で設定する。そこに7つの「思考・判断・表現」と、10の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、各教科・科目が学習活動で主眼に置く項目を選択する。

特別活動では、上記の7つの「思考・判断・表現」と、10の「主体的に学習に取り組む態度」の中から、顧問や指導者等が特別活動で主眼に置く項目を選択する。

アドミッション・ポリシー

「自ら問いを立て、その解決に取り組む、課題発見・課題解決力と、創造性を持った生徒」の基本要素「3つのC」に基づいた、入学者の受け入れに関する方針。本校では、以下のような生徒の入学を求める。

Critical Thinking (C1)	教科学習をはじめ、部活動や生徒会活動においても、既存の情報をうのみにせず、真意を疑い、物事の本質を問い続けながら粘り強く考えようとする生徒。
Creative Thinking (C2)	自らの持つ知識同士のつながりや、他者の持っている知識とのつながりによって、多方面において新たな発想をしようとする生徒。
Collaboration (C3)	個人それぞれが他者と協働し、自己の弱みについては補完し、強みについてはさらに発展させようとする生徒。